



近年の原木需要に対する林業事業体の対応状況

林業試験場 道南支場 津田高明

背景と目的

製材工場では原木が不足している

- ✓ 原木価格を上げて集めざるを得ない。トドマツ、カラマツとも径14-18cmはずっと不足(民有林新聞H31.3月)
- ✓ 合板原木の値上げに伴い、製材原木も1,000円/㎡以上高くなった(民有林新聞H31.2月)

原木不足の要因は？

■素材生産量は減っている？⇒増えている！

- ✓ H25: 400万㎡→H29: 460万㎡
(北海道林業統計)

■丸太の輸移出や消費量の増加？⇒バイオマス利用以外は横ばい

- ✓ 輸移出 30万フレートton前後で推移(図-1)
- ✓ 原木消費 180万㎡で推移(北海道林業統計)
- ✓ 未利用材利用量 H25:10万㎡ →H29:70万㎡

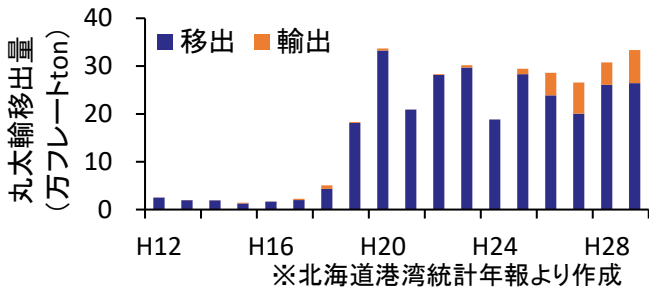


図-1 原木輸出・移出量の推移
※北海道港湾統計年報より作成

流通の問題？

林業事業体は原木供給にどう対応している？

道南・道央・道東の森林組合(6組合)、民間会社(2社)に、平成30年に聞き取り調査をしました。

【聞き取り内容】

- 伐採計画の策定(伐採方法、需要情報元)
- 需要への対応(対応時期、出荷までの期間)
- 丸太の販売先・経路(道外移出等)

内容と結果

□ 伐採計画の策定方法

- ✓ 製材工場を所有する事業体では、主伐をより積極的に選択(間伐適期の林分の減少、工場在庫の確保)
- ✓ 自社工場があれば在庫状況から、なければ道森連や商社から需要情報を取得

□ 需要への対応方法

- ✓ 伐採は計画通りに進め、山土場の造材丸太を選別して出荷が一般的
- ✓ 雪融け期を除いて運材している業者が多く、造材～出荷までは1ヶ月

□ 丸太の販売先・経路

- ✓ 製材工場を所有する組合は適木を自社消費

製材工場の所有有無により需要への対応が異なる

今後の展開

全道の森林組合・林業事業体を調査し、状況把握します。

| 林業事業体 | 伐採樹種 | 主な伐採方法 | 原木需要の情報元 | 需要への対応 | 造材後納品までの期間 |
|---------|------|--------|--------------------------------|----------|------------|
| A組合(道南) | スギ | 間伐 | 道森連, 商社, 他社工場 | 造材丸太から選別 | 1ヶ月程度 |
| B組合(道央) | カラマツ | 主伐 | 自社の製材工場の原木在庫, 道森連 | 造材丸太から選別 | 1ヶ月程度 |
| C組合(道東) | カラマツ | 主伐 | 自社の製材工場の原木在庫, 道森連 | 造材丸太から選別 | 1ヶ月程度 |
| D組合(道東) | カラマツ | 主伐 | 自社の製材工場の原木在庫, 道森連 | 造材丸太から選別 | 1ヶ月程度 |
| E組合(道東) | カラマツ | 主伐 | 自社の製材工場の原木在庫, 道森連 | 造材丸太から選別 | 1ヶ月程度 |
| F組合(道東) | カラマツ | 間伐 | 道森連, 他社工場 | 造材丸太から選別 | 1ヶ月程度 |
| G会社(道央) | トドマツ | 間伐 | 商社, 他社工場 | 造材丸太から選別 | 1ヶ月程度 |
| H会社(道東) | カラマツ | 間伐・更新伐 | 自社の製材工場の原木在庫, 他社工場, 木質バイオマス発電所 | 造材丸太から選別 | 1ヶ月程度 |

※緑色の林業事業体: 自社で製材工場を所有

| 自社工場 | 道外移出 | | 道内 | | |
|--------|------|------|------------|--------------------|--------------|
| | 有無 | 販売経路 | 大径木(30cm~) | 中径木(14~28cm) | 販売経路 |
| あり(5社) | 1 | 商社 | A社(5) | 自社工場(5) 他社工場(1) | 他社工場へ直接販売(1) |

なし(3社) 2 商社 A社(2), 他社工場(1) 他社工場(3) 道森連(2), 商社(1), 直接販売(3)

※カッコ内: 回答数